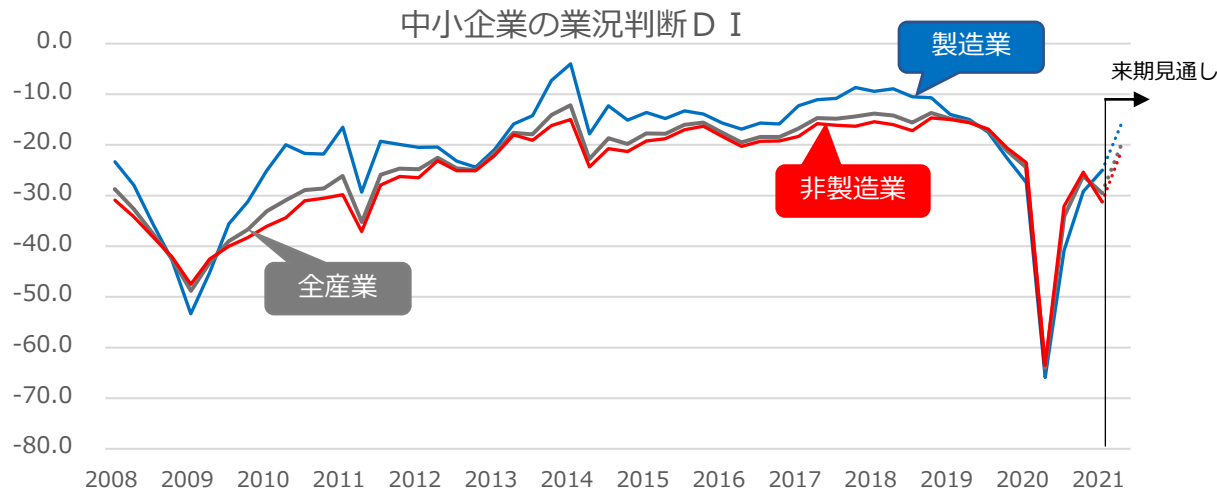


# 第163回中小企業景況調査（2021年1-3月期）のポイント

## 中小企業の業況は、足踏みのなかにも、一部に持ち直しの動き

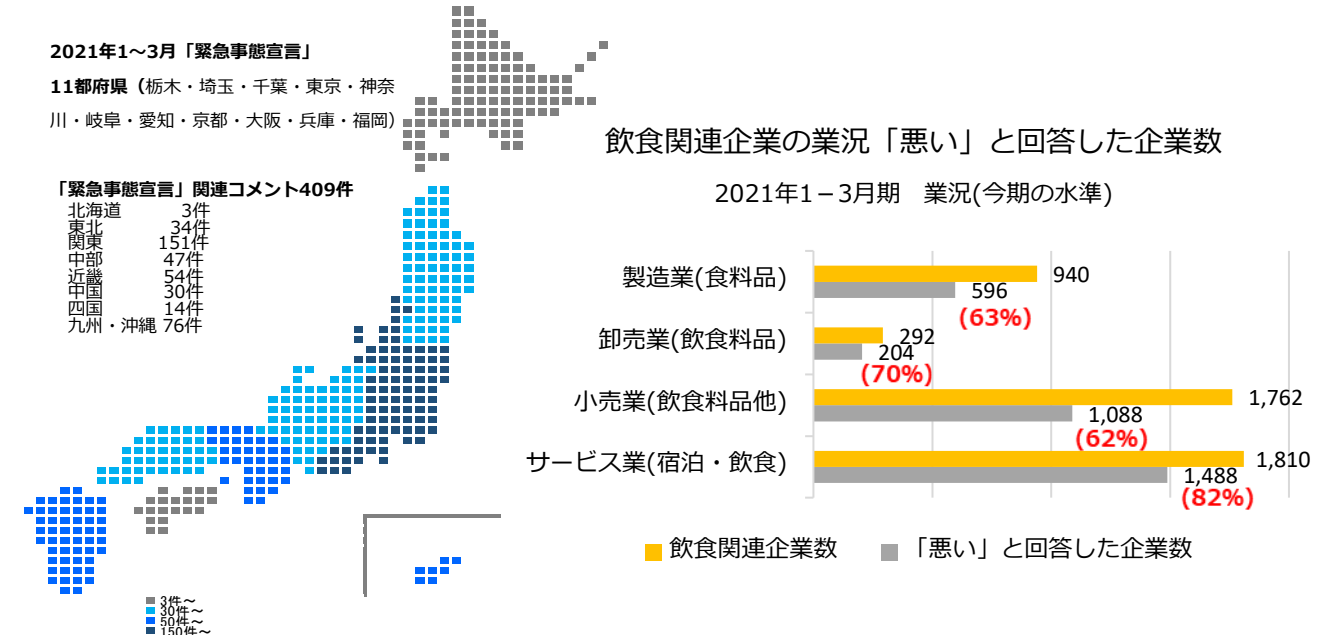


※上記DI：前期（2020年10-12月期）と比べて、【好転】、【不変】、【悪化】の3択で質問し、【好転】割合から【悪化】割合を差し引きし、季節調整を行った値。

中小企業の業況判断DIは、全産業で▲29.5（前期より3.4ポイント減）、製造業で▲25.0（前期より4.2ポイント増）、非製造業で▲31.2（前期より5.8ポイント減）と、足踏みのなかにも、一部に持ち直しの動きが見られた。  
【報告書P.12 1-(1) 全産業より】

## 緊急事態宣言による影響とワクチンへの期待

11都府県に発令された2回目の緊急事態宣言においても、全国に発令された1回目と同様に全国に影響が及んだ。また、業況における今期の水準について「悪い」と回答した企業は、18,210企業のうち10,211企業(56%)となり、特に、飲食関連企業への影響が大きかった。



また、「全産業」「製造業」「非製造業」のそれぞれにおいて、業況判断DIにおける来期の見通しは上向いており、背景の中には、ワクチン接種開始による新型コロナウイルスの収束への期待の声が多く見受けられた。(自由回答より)

**【製造業】**

- ◆コロナの収束が不透明な中、内食等の個人消費は堅調ながら、飲食店・サービスエリア等の業務用の売上が伸び悩んでいる。ワクチン接種により事態が好転することに期待する。(食料品)
- ◆販売サイトへの出品で、月に少しずつだが売上が出てきているので、これから対面での販売以外にも力を入れていきたい。ワクチン接種の効果で以前のような販売会が出来るようになってくれたらと思う。(家具・装備品)

**【サービス業】**

- ◆お昼の来店者数は良くなってきてはいるが、宴会などの大人数での利用は殆ど無い。コロナウイルスのワクチン接種も始まってきているため、来期に期待したい。(食堂、レストラン)
- ◆緊急事態宣言下において、営業継続すべきかどうか、現在予約中の日は営業するが、予約が無い日は全部休館している。ワクチン接種が始まり、安心して旅行できる環境になるまで、営業は難しい日が続くだろう。(旅館、ホテル)
- ◆コロナ禍の中での業務が続き、業況は依然良くない。来期は、ワクチン接種の心理的な影響が考えられプライダルのキャンセルが減少し若干の好転が期待できる。(美容業)
- ◆ようやく、新型コロナウイルス感染の第3波が収まりつつあり、また、ワクチンの輸入が始まり、順次接種が行なわれるのは大きな希望である。順調に輸入され感染減少の効果が出れば、経済にとっても明るい材料になる。(一般貨物自動車運送業)

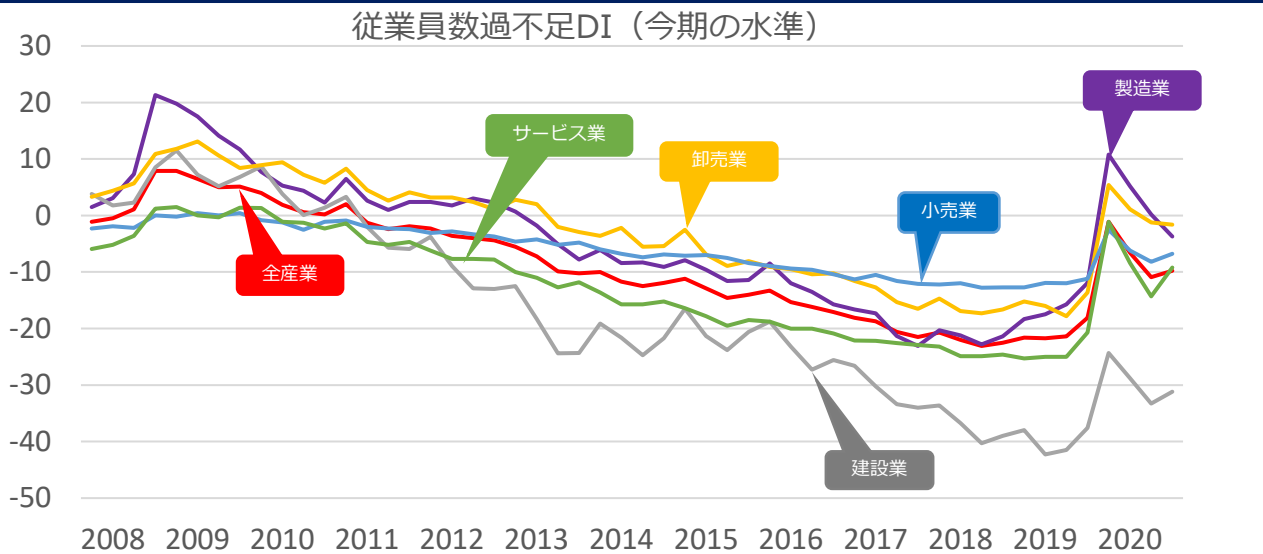
**【調査要領】**

- 1.調査時点 2021年3月1日時点
- 2.調査対象 中小企業基本法に定義する全国の中小企業（調査対象企業数18,912、有効回答企業数18,210、有効回答率96.3%）
- 3.自由回答数 4,158件（上記の他、「中小企業景況調査報告書」p.11、「中小企業景況調査資料編」p.80-81に掲載）

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)  
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、回答者自身の言葉には、各企業が抱える課題が表れている。

4.参考 (1)緊急事態宣言：1月8日～3月21日（集計対象ワード：緊急事態宣言、休業、時短、自粛）  
(2)新型コロナウイルスワクチン接種開始：2月17日

## 全産業の従業員数過不足DIは3期ぶりに不足感が弱まった



※上記DI：今期の水準について、【過剰】、【適正】、【不足】の3択で質問し、【過剰】割合から【適正】割合を差し引きした値

全産業の従業員数過不足DIは、▲9.8（前期差1.1ポイント増）と3期ぶりに不足感が弱まった。また、産業別に見ると、製造業で過剰から不足に転じ、サービス業、建設業、小売業で不足感が弱まり、卸売業で不足感が強まった。  
【報告書P.15 9.従業員数過不足DIより】